

ふせじんじゃ たうえまつり

布施神社のお田植祭

かがみのちょう
【岡山県鏡野町】



鏡野町布施神社の境内で、毎年5月5日に、古式ゆかしく伝統的なお田植祭が行われます。平安時代末期から続くとされる五穀豊穡を祈る神事で、別名「神田植」とも称されます。

当日は、頭屋になった地区が神社に集まり、境内を清める獅子練りの後、子供が牛に扮して行う「荒起こし」「代かき」、畦ぬりを行う「鍬代（くわじろ）」、榊の葉をちぎっては撒く「田植え」の神事が続きます。最後に殿様と従者（福太郎）が登場しておもしろいかけあいが繰り広げられ、会場は笑いに包まれますが殿様は決して笑いません。「殿様が笑うと、その年は不作になる」といわれているからです。

開催場所	布施神社（鏡野町富西谷220）
開催時期	毎年5月5日
アクセス	JR津山線「津山駅」から車約1時間10分 米子道「久世IC」から県道82号、56号で車約30分 中国道「院庄IC」から国道179号、県道56号で車約30分
問い合わせ	鏡野町富振興センター ☎ 0867-57-2111

周辺情報

鏡野町富地域は、日本古来の「たたら」製鉄が古くから行われてきた場所で、たたら展示館では、たたら製鉄を詳しく紹介し、出土した遺物を展示しています。

また、白賀溪谷は約5kmという県下有数の規模を誇る溪谷で、ハイキングや溪流釣りで賑わいます。少し足を延ばせば「のとり原キャンプ場」や県下で最も標高が高く大自然を眺望できる露天風呂のある「のとり温泉天空の湯」があり、四季折々の自然が満喫できます。

みぶ はなたうえ 壬生の花田植

きたひろしまちょう
【広島県北広島町】



毎年6月の第1日曜日、広島県北広島町で「壬生の花田植」が行われます。

花田植は、稲作の平穏と豊穡を祈るとともに、田植え作業を楽しくしようと生まれた行事で、壬生の花田植は、西日本に残る花田植としては最大の規模を誇り、初夏を彩る壮大な田園絵巻として知られています。

祭りでは、きらびやかに着飾った10頭を超える「飾り牛」が勢揃いして代かきを行い、太鼓や鉦による迫力ある囃子にあわせて、赤い襷（たすき）や腰巻きで着飾った早乙女が田植え唄を歌いながら早苗を植えていきます。

開催場所 北広島町壬生

開催時期 毎年6月第1日曜日

アクセス JR広島駅南口・広島バスセンターより、三次・庄原・東城行き的高速バスに乗車し「千代田IC」で下車（約1時間）、隣接する「道の駅舞ロードIC千代田」より会場までシャトルバスあり
中国道「千代田IC」から約1km（臨時駐車場：北広島町役場、アルゾ、壬生小学校）

問い合わせ 北広島町観光協会 ☎ 0826-72-6908

周辺情報

千代田ICの隣には、大きな太鼓が目印の「道の駅舞ロードIC千代田」があり、地元の新鮮なとれたて野菜が並ぶ広々とした産直市があり、食事も楽しめます。

また、北広島町には、約70もの神楽団があり神楽も盛んに行われ、地域に根付いた伝統芸能が大切に受け継がれています。

かみだまつ

神田祭り (通称どろんこ祭り)

【高知県高知市】



神田祭り（どろんこ祭り）は、高知市長浜の若宮八幡宮で行われる400年以上の歴史を持つ五穀豊穡、無病息災を祈る春祭りです。

祭りでは、若宮八幡宮での神事のあと、儀式田で浴衣姿の早乙女たちが田植えを行います。田植えが終わると太鼓の音を合図に、女性達が男性の顔に泥をぬっていきます。泥をぬられた男性はその夏病気をしないといわれています。2日目、3日目は地元の福祉施設や保育園を訪問し、泥ぬりや踊りを披露しています。

開催場所	若宮八幡宮（高知市長浜6600）
開催時期	毎年4月第1土曜日から3日間
アクセス	JR高知駅から車で約25分、 高知龍馬空港より車で30分 高知道「高知IC」より車で30分

問い合わせ

若宮八幡宮 ☎ 088-841-2464

周辺情報

高知城下の追手筋で毎週日曜日に開催される日曜市は、300年以上の歴史があり、全長約1.3kmにわたって約400軒が軒を並べ、近郊農家を中心に新鮮な野菜や果物・植木等が販売されています。この日曜市には、市民や県外からの観光客等を含め、多くの人々が訪れ賑わっています。

たしろじんじゃ おんださい 田代神社の御田祭

みさとちょう
【宮崎県美郷町】



田代神社の御田祭は、主祭神彦火々出見命（ひこほほでみのみこと）の御神霊を田代神社よりお迎えし、上円野神社から中の宮田への御神幸により行われる田植祭です。

上円野神社の降神神事を皮切りに、「中の宮田」では牛馬や神輿入れの他、早乙女による田植え神事が執り行われ、参詣者の無病息災と豊作を祈願します。

古い型の田植唄や幟持ちなど古風な習俗をとどめ、古式ゆかしい農耕作業が村落の共同作業であると同時に神事であったことを裏づけるもので、宮崎県の無形民俗文化財にも指定されています。

開催場所 御田祭の里ふれあい広場（美郷町西郷田代）

開催時期 毎年7月上旬

アクセス JR日豊本線「日向市駅」から宮崎交通バス椎葉線で「美郷町役場前」下車（開催期間中臨時バス有り）、指定駐車場あり（約2000台）

問い合わせ 御田祭実行委員会（町役場企画情報課内） ☎ 0982-66-3603

周辺情報

御田植の前日には前夜祭として、「ふるさとうまいもん広場」が開かれ、地元の特産品販売や花火大会が行われます。

また、役場から御田祭の里ふれあい広場までの道路沿いに50軒ほどの出店が並び、町内をはじめ隣接市町から家族連れや浴衣姿の若者がたくさん集まり、とても賑わいます。



「せつぺとべ」は文禄4年（約420年前）から日吉地域に伝わる「お田植え祭り」です。

「せつぺとべ」とは鹿児島の方言で、「せつぺ」は精一杯、「とべ」は跳べ、という意味です。「こんなに一生懸命に土をこねて田植えをしますから、今年も大豊作でありますように」と、白装束姿の若者が肩を組み円陣を組んで御神田で唄を歌い、酒を飲みながら飛び跳ねます。

田の中で飛び跳ねるのは、土をこねる意味と害虫を踏み潰す意味があり、泥まみれになって今年一年の豊作を祈願します。

- 開催場所 日置八幡神社（日置市日吉町日置）、吉利鬼丸神社（日吉町吉利）
開催時期 毎年6月第1日曜日
アクセス JR鹿児島本線「伊集院駅」から鹿児島交通バス枕崎行きで15分、
「日置郵便局前」下車、徒歩5分（日置八幡神社）
伊集院駅より車で約15分（日置八幡神社）
問い合わせ 日置市商工観光課 ☎ 099-248-9409

日置八幡神社にほど近い「城の下物産館」は、日吉地域のアンテナショップとして特色ある素材を活かした特産品（緑竹・しんこ団子・農産物）などを販売しています。

日置市の西側に位置する吹上浜は、約47kmと日本一の長さを誇り、日本三大砂丘の一つです。また、アカウミガメの産卵地になっており、毎年6月～7月にかけて50頭近くが産卵のために上陸します。



夏は稲が成長する季節です。無事に育つように、害虫の発生、雨や風の被害がないことを祈ります。

代表的なお祭り

虫送り

松明（たいまつ）を灯し、害虫を結びつけたわら人形を流す、捨てるなどして、害虫を追いかします。

雨乞い

干ばつが続いた際に、踊りを奉納したり火を焚くなどして、雨が降ることを祈ります。

豊郷神楽（北海道網走市）	16
相内の虫送り（青森県五所川原市）	17
北川崎の虫追い（埼玉県越谷市）	18
岳の幟（長野県上田市）	19
ねつおくり（富山県南砺市）	20
横江の虫送り（石川県白山市）	21
門脇の雨乞踊り（岐阜県本巣市）	22
椎出 鬼の舞（和歌山県九度山町）	23
鹿子原の虫送り踊り（島根県邑南町）	24
西祖谷の神代踊り（徳島県三好市）	25
御田植神幸式（熊本県阿蘇市）	26
四ヵ字豊年祭（沖縄県石垣市）	27



開催場所

豊郷神社神楽殿（網走市字豊郷319-2）

開催時期

毎年8月1日

アクセス

JR釧網線「鱒浦駅」下車から徒歩50分
女満別空港から豊郷神社まで車で20分
網走市内から豊郷神社まで車で15分

網走市の豊郷神社で、毎年8月1日、五穀豊穰を祈る豊郷神楽が奉納されます。

豊郷神楽は、明治42年（1909年）に宮城県からの入植者の中で伊勢神宮に伝わる太々神楽と仙台神楽の手ほどきを受けた人々を中心に、収穫を神に感謝し舞を奉納し、お互いの活力を見出して行こうとしたのが始まりで、以来100年以上に渡り一度も休むことなく継続されています。

神楽は、神楽殿の四方を清め、悪魔を払い、種をまき、野に山に海に狩りをし、豊作を祈り、実りを感謝するという内容で、現在奉納神楽として踊られる神楽の演目は全部で12種あります。

問い合わせ

豊郷神楽保存会 ☎ 0152-44-3150

網走市豊郷地域は、じゃがいも、ビート、小麦・ビール麦を中心に生産する畑作地帯です。これらの作物が織りなす美しい農村景観に出会える「感動の径（みち）」は、小高い丘の上を通るルートで、網走湖、オホーツク海や知床連山を望める眺めの良さが評判のドライブコースです。

あいうち むしおく
相内の虫送り

ごしょがわら
【青森県五所川原市】



相内の虫送りは、田植えが終ってサナブリ（田植後の休日）となるこの時期に、稲作の障害となる害虫を追い払い、五穀豊穡と無病息災を祈願する行事です。

約450年の長い歴史があるとされ、津軽地方の虫送りの原型といわれています。

わらで作った虫人形を先頭にして荒馬と太刀振りが行列をつくり、市浦コミュニティセンター前を出発し、相内地区のすみずみまで門酒を飲みながら練り歩き、最後は使用された虫人形を相内神明宮の松にくくりつけて村の田んぼを守ります。

開催場所 五所川原市相内地区

開催時期 毎年6月第2土曜日

アクセス 津軽鉄道「津軽中里駅」よりバス25分「相内バス停」下車、徒歩すぐ
東北道「浪岡IC」から国道33号経由で約55km（約1時間10分）
駐車場あり（100台、無料、五所川原市市浦総合支所の駐車場）

問い合わせ 五所川原市観光物産課 ☎ 0173-35-2111

相内地区のある市浦地域は十三湖の北にあり、五所川原市の飛び地となっています。国道339号線沿いにある道の駅「十三湖高原」は、十三湖畔の高原牧草地にあり、360度のパノラマで海と山が展望できます。ショップでは、十三湖名産の「ヤマトシジミ」をはじめ、新鮮な地元産品が販売されています。

きたかわさき むしお

北川崎の虫追い

こしがや
【埼玉県越谷市】



虫追いは、越谷市の川崎神社で毎年7月24日に行われる、江戸時代から続く農村行事です。寛政3年（1791年）の夏、天候不順により稲に沢山の虫がついたため、麦わらで作った松明を燃やしながら田畑を回ったところ、虫がいなくなりその年は豊作になったという記録が近隣の村にあり、この地域の虫追いもその頃に始まったと推測されます。

当日は、麦わらを束ねた長さ3mほどの大きな松明に火を灯し、鉦（かね）や太鼓を打ち鳴らしながら「稲の虫、ホーイホーイ」と田んぼ道を練り歩き、稲につく害虫を追い払い、豊作を祈願します。

開催場所	川崎神社・北川崎集会所周辺（越谷市北川崎107周辺）
開催時期	毎年7月24日
アクセス	東武鉄道伊勢崎線「北越谷駅」発、茨城急行バス「松伏」下車、徒歩約10分
問い合わせ	越谷市生涯学習課 ☎ 048-963-9315

周辺情報

越谷市はベッドタウンとして都市化が進み、大きな商業施設もできていますが、郊外には水田地帯が広がっています。

市内に2カ所あるJAの農産物直売所「グリーン・マルシェ」では、越谷産の米や野菜、花などが多数販売されています。また、いちごやブルーベリー、ぶどうなど季節のくだものが味わえる観光農園も12カ所あります。